

坂の上の暮らし

(2022年度県民ボランティア振興基金事業)

第8号

2022年12月27日
させぼ山手研究会(Sasebo Yamanote Workshop)
Email:mitsuguhimaki72@gmail.com
電話090(4205)7471
(編集・責任 檜楨 貢 理事長)

レモンロードというシグナル

- ・12月17日、2人の理事メンバーが北九州市八幡東区枝光一区を訪ねました。その理由は2つ。1つはこの地域が明治時代の豊かな国づくりのシンボルだった官営八幡製鉄所を中心につくられたまちだということです。同時期に強い国づくりの鎮守府都市佐世保が拓かれました。ともに港湾都市の住宅地であって、現在では人口減少も共通しています。
- ・もう1つは八幡の枝光一区が斜面地再生の先進地だということです。これまで20年以上の時間をかけて、大学(九大)の協力を得ながら、住民主体の斜面地再生を進められています。枝光一区は佐世保・白南風町におけるこれらの「坂の上の暮らし」づくりを学ぶための先達だということです。
- ・訪問日には、収穫が終っていましたが、レモンの木が区内中心を走る道路の街路樹として植えられていました。その道はレモンロードと名付けられ、レモンカラーが地域活動のスタジャン等につかわれていました。また、空き地の多くは地元のための畠や憩いの場として使われていました。

左写真
レモンロード
(収穫後の街路樹)

右写真
空き地の畠
(住民がイベント等で使うネギ畠)



「地域社会をマネジメントするしくみ」

- ・仕事、買物、学校、遊び、散歩、ご近所づきあい。安心安全な暮らしを続ける。斜面地であっても、まちは個々の住宅地等を階段や細い坂道をつなぐことで維持されています。もっと楽に、もっと自由に、もっと安心して自由に暮らしたい。そのためには住民主体のマネジメントがいると思われます。町内会や自治会はそのために作られたものです。
- ・坂の上の暮らしを豊かなものにしたい。そのために斜面地に住む人たちが自分で課題に気づき、解決するしくみが必要でしょう。坂の上の暮らしはそんな暮らしだと思っています。
- ・させぼ山手研究会はそのきっかけをつくりたいとい市民組織です。坂の上の住民の暮らしをつくり、持続的にマネジメントする町内会や地区自治協議会を願っています。住民の思いを地域社会組織に橋渡しをする活動を進めます。

斜面地低未利用地再生事業

佐世保市の東高梨町内会は11月19日(土)の秋祭りで「新公園」をお披露目した。福岡在住の空き地を芝生で覆った広場がその「新公園」。町内のミニ運動会を開いた。低未利用地も地域のために使えは町内の資源だと集まった住民と来賓に見せつけていた。

防災シビックプライド育成事業

まちなかこそサバイバル技術が必要だ。孤島で人はどう生きるか。それがサバイバルの一般的テーマだが、まちなかでもそれなりのサバイバル技術がいる。2月12日(日)実施予定のさせぼ山手研究会主催のDayキャンプ。そのコンテンツを現在検討中。

斜面モビリティ事業

斜面地の狭い道路脇の住宅は無理をしている。高床式の住宅だったり、路面より低い土地に住宅を建てている。地震が少ない地域だからそれが可能なのかもしれないが、高床の鉄骨が折れたり、車が家に突っ込むこともあります。そこに合うモビリティのあり方を考えたい。